



10,000トンフリー鍛造プレス



クラッド材



ネオジウム磁石 NEOMAX®



タービンケース



産業用ロボットケーブル

プロテリアルの新章：113年の歴史を持つ企業が描く、グローバル展開とイノベーションの未来

株式会社プロテリアルは、100年を超える歴史を持つ高性能材料のサプライヤーであり、2023年の大規模なブランド変更を機に、新しいエキサイティングな章に足を踏み入れた。

1910年の創業以来、株式会社プロテリアルは、特に自動車産業を中心に、国内外のメーカーに高品質で最先端の材料を供給してきた。

同社はまた、産業インフラ（主に鉄道車両と航空宇宙など）と電子機器セクターの顧客にも焦点を当てている。

今年1月まで日立金属として知られていたが、プライベート・エクイティ会社のペイン・キャピタルが率いるコンソーシアムによる買収後、社名を変更した。

代表取締役 会長 兼 社長 CEO のショーン・スタック氏は、「社名変更は、事業のブランドを再構築し、日立グループの多様なポートフォリオと差別化するまたとない機会となった」と説明する。

「日立金属の歴史は尊重しつつも、新しい社名により、中核事業に集中し、成功のために必要な戦略、資本、資源を提供するという当社のコミットメントを示すことができます」

「プロテリアルという名前は、企業理念の本質を反映しており、「プロ」と「マテリアル」を組み合わせただけです。プロは、期待を超える仕事、プロGRESSな挑戦の精神、プロACTIVEな姿勢を表しています」

「一方、マテリアルは、これら3つの長所に支えられた独自の



「リブランディングはプロテリアルのチームによって意思決定されました。新しい社名は、我々のビジネス、文化、将来のありたい姿を分析したうえで、選ばれました。」

株式会社プロテリアル 代表取締役 会長 兼 社長 CEO ショーン・スタック

技術が生み出す高性能素材を指します」

スタック氏は、プロテリアルが国際的な響きを持つことを強調し、これがアジア、ヨーロッパ、アメリカに海外拠点を設立している同社の世界的な市場での存在感を強化する努力と密接に結びついていると語る。

「歴史的に、私たちは主に日本市場に焦点を当ててきましたが、現在は日本国外の顧客との市場シェアを拡大し、獲得する絶好の機会があることを認識しています。そのためには、グローバルなマインドセットを採用し、世界規模のリーダーになる必要があるのです」

「これは、日本の顧客のニーズに応える一方で、北米やヨーロッパなどの新しい市場にも参入するため、さまざまな地域に戦略的にリソースを配置するということです」

「私たちは、これらの市場で大きな可能性を秘めた技術的に高度な製品を保有しています。先見的な考え方を身につけ、こうしたチャンスを生かすために必要なインフラを確立する必要があります」とスタック氏は強調する。

同社は、これまで成長余地のある事業分野を特定してきたとスタック氏は続ける。

「ニッケル合金に焦点を当てた当社の特殊鋼事業部門も重

要な重点分野です。この事業部門では、世界の航空宇宙市場でより影響力のあるプレーヤーになるためにリソースを割り当てています」

プロテリアルの自動車関連企業が電気自動車（EV）への移行に取り組む中で、特殊鋼が果たす役割は大きいという。

「特殊鋼事業では、クラッド材など、EVバッテリーの性能と生産性を向上させる製品に注力しています。バッテリープラットフォーム向けに材料を効果的に組み合わせることができるため、溶接などの代替方法では実現できない利点を提供できるのです」とスタック氏は続ける。

プロテリアルが113年の歴史に新たな章を刻むにあたり、スタック氏は成功に不可欠なのは企業文化だと結論づけた。

「社長としての最後の日が来たら、誰もが結果に責任を感じるような文化を作り上げていきたいです。お客様と協力して、問題をより効率的に特定して解決する」

「このような企業文化を作り上げることができれば、戦略を成功させ、顧客を満足させ、高い業績を達成することができるでしょう」